

舞鶴市入札監視委員会(平成23年度第1回) 議事概要

開催日時及び場所	平成24年1月23日(月) 午後1時00分～2時45分 舞鶴市役所 4階 議員協議会室	
出席委員氏名	たかはし ゆきお 高橋 行雄 (弁護士) はっとりとしゆき 服部 利幸 (立命館大学政策科学部教授) たまだかずや 玉田 和也 (舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科教授)	
議事概要	1 開会あいさつ (馬場副市長) 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 入札及び契約手続きの運用状況等の報告 平成23年度前半の入札状況等について事務局より報告 (2) 抽出工事に関する工事の概要と入札の状況について 抽出案件の工事概要と入札経過等について担当課長及び事務局より説明 4 その他 次回の抽出委員に玉田委員を選出した。 次回の開催は平成24年7月又は8月を予定する。 5 閉会あいさつ (企画管理部長)	
審議対象期間	平成23年4月1日～平成24年10月4日	
抽出案件	総件数 5件	(備考)
一般競争入札	5件	対象件数 165件
指名競争入札	0件	
委員からの意見・質問とそれに対する回答等	意見・質問	回答等
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会意見の内容	議事(1)関係 業種によって見られる入札の傾向について、競争性の観点を含め、今後も様々な角度から分析を進められたい。 議事(2)関係 地域を重視することの大切さの中で、同時に説明責任が伴うことを意識し、より効果的な発注方法となるよう進められたい。	

別紙

「3 議事 (1) 入札及び契約手続きの運用状況等の報告」関係

意見・質問	回答等
<p>審議がマンネリ化しないためにも、過去に出た課題を時系列的に並べて、多様な角度から審議する必要がある。</p>	
<p>管・水道施設の入札及び落札状況、さらに最低制限価格も他と比較して少し高めの傾向が見られるが、何か理由は考えられるか。</p>	<p>最低制限価格を競う傾向でないことについて、特に理由を把握しているわけではありませんが、ひとつには業者数の関係もあると考えられます。</p>
<p>多くを占める土木一式は最低制限価格付近に応札と落札が集中しているが、建築一式は、最低制限価格付近とそれ以外に二極化している。 建築一式の傾向についてどのように捉えているか。</p>	<p>建築一式は、多くの入札において二極化が見られます。 金額が低い案件ほど二極化が顕著で、高額になるほど差が無くなる傾向が見られます。</p>
<p>入札を繰り返すことによる業者側の学習効果が、業種ごとに異なる応札状況の推移に表れている印象を受ける。</p>	
<p>土木一式は、特に最低制限価格の傾向を研究して入札している印象を受けるが、その価格が適正な施工に必要な経費と利益を確保した見積もりであるかは別の話であろう。 建築一式に見られる応札価格の分散は、その背景として、民間発注に比べて発注量の少ない公共発注における利益計算のほか、技術的対応の可否がある印象を受ける。</p>	
<p>建築一式工事は、金額ベースの平均落札率が平成19年度に比べて10%近く上昇していたり、応札状況が二極化しているなど他業種とは異なる傾向にある。 ここに関連性はないのか。 また、大型工事で入札参加業者が少ないことによって競争性が損なわれていないかなど、様々な角度から今後も分析を進められたい。</p>	

「3 議事 (3) 抽出工事に関する工事の概要と入札の状況について」関係

- ① 公営住宅（三宅団地建替第1期）北棟新築工事
- ② 公営住宅（三宅団地建替第1期）南棟新築工事

意見・質問	回答等
<p>2件とも落札率が94%を超える結果となっている点について、どのように見ているか。</p>	<p>昨年の（仮称）赤れんがパーク6号・7号倉庫の整備工事も、今回同様に建築業者3者によるJVで参加者数も同じでしたが、落札率は今回よりも若干低めでした。</p> <p>JVは同じ組合せの傾向にあり、結果的に最低制限を競うような入札ではありませんでした。</p>
<p>今回の抽出に当たっては価格の他に落札率にも着目したが、落札率が高い案件は入札参加者が少なかったと考えられるか。</p>	<p>入札参加者数が少ない入札ほど、落札率が高くなる傾向はあります。</p>
<p>結果的に参加業者数が少ないことで、他に比べて高い落札率になったのであれば、入札の方法、制度に関して考慮すべきという意見も考えられるのではないか。</p>	
<p>総合評価方式にしなかった理由は何か。</p> <p>公営住宅の建築においては、耐震性やバリアフリーといったところで仕様を満たした上で価格とアイデアを競うこともできる。</p> <p>今後の発注もあるので、今回の工事評価の反映方法を研究してはどうか。</p>	<p>これまで本市では土木一式工事において総合評価方式の入札を試行してきましたが、建築一式工事では評価する体制作りなどが整っていない状況です。</p> <p>京都府では昨年からは建築一式工事にも総合評価方式を導入しているので、今後、府のアドバイスを受けながら、検討していきたいと考えています。</p>
<p>過去に共同企業体に発注した工事と比較しても、参加業者数等はほぼ同じ条件であるが、今回は落札率が高くなっている。</p> <p>参加業者数が固定化することで競争性が低くなってきているのであれば、今後も同様の状況が続く可能性がある。</p> <p>発注方法等を工夫して改善する必要があると思う。</p>	<p>最近、工期の長い大型工事が重なった状況にあります。</p> <p>今後も市内業者への発注を基本とすることには変わりはありませんが、競争性を向上させるような工夫をして制度内容をさらに良い方向に改善していきたいと考えています。</p>
<p>94%の落札率を問題視しているわけではなく、適正な価格であるかが大切と考える。</p> <p>この価格になった理由を、客観的に説明いただけるようお願いしたい。</p> <p>この説明ができないと、競争が複雑になる総合評価方式の説明が難しくなる。</p> <p>説明責任を意識して、しっかり取り組んでほしい。</p>	

③ 西浄化センター電気設備工事（その4）

④ 西浄化センター汚泥処理設備工事（その3）

意見・質問	回答等
入札を中止した経緯があるが、再公告において入札要件の参加者数を3者から2者にするためにどういった承認手続きをするのか。	入札要件については、入札公告に記載しており、それに基づき中止したのですが、再度行う場合も含め、その要件については、内部の委員会で決定します。
過去に同じ理由で入札を中止した例はあるのか。	今回を含めて過去3回あります。いずれも、同じ手続きを取っています。
参加業者数と落札率の傾向に着目しているが、参加者が2者になった理由として何が考えられるのか。 今回のように高額になる電気設備工事とはどのようなものなのか。	今回は増設工事で、既存施設と一体的運転管理が必要なものです。 他と比較して落札率が高くなる理由としては、機能増設は二次製品比が高くなることや諸経費よりも材料費が高くなる傾向にあることが考えられます。 現在、随意契約している部分もありますが、今回の工事は、特定部分以外での競争が期待できることから一般競争としました。 水処理の安定供給が必要なため、国・府・下水道事業団も同様の方法を取っています。 また、一体的に発注することも可能ですが、分離発注（電気と設備）としたのは、市内業者の受注拡大のためです。
汚泥処理設備工事も同様に既存設備と関係があるのか。落札率が電気設備と比較して低いのはなぜか。	汚泥処理設備工事は、既存の設備とは別に作るもので、メーカーを指定する必要がないことから、より競争性が働いたものと考えられます。
工事の性質上、予定価格の算定においてメーカー主導となりがちなものについては、その算定を厳しくすることも大切という印象を受けた。	

⑤ （仮称）前島歩道橋周辺整備工事

意見・質問	回答等
この工事を総合評価方式とした理由は何か。	平成20年度から毎年度2件ほど試行的に行っている段階であり、今年度予定していた土木一式工事において高額なものから選択したものです。
これまで総合評価方式を行ったことで、価格以外のメリットとしてどのようなものがあったか。	業者から施工計画を事前に提案していただきますが、現場代理人や主任技術者がよく把握していますので、協議する場合にも効率的で意識の向上に効果があったと感じています。

<p>今後も総合評価方式の試行にあたっては、経験を蓄積していくためにも、市としてその目標を意識して行なってほしい。</p>	
<p>評価方法が徐々に進歩していると感じている。業者が工事を分析する力が上がるので、ぜひ今後とも進めてほしい。</p>	
<p>業者が次の受注に繋がるように、工事成績評価を上げようと努力し、それを評価する仕組みができることが好ましい。 また、総合評価方式では配置技術者の工事成績評価も加味されるので、技術者個人のモチベーションも上がると聞いている。 技術者の工事実績としての対象金額をもう少し下げた方が効果的になると思う。</p>	
<p>社会貢献度の配点については、もう少し増やしても良いと思う。 市民に工事についての社会的な意義や必要性等のPR活動に繋がり、公共工事が認識されやすい環境になる。</p>	
<p>舞鶴市バージョンの総合評価方式を積極的に考えた方が良い。 技術評価点による逆転についても、それが見えることで業者は良いものを残すことになると思う。 全てを総合評価にすることが適しているとは思えないが、対象工事の選定に当たっては明確な理由等を説明いただけるとありがたい。 市における有効な発注システムとして育ててほしい。</p>	

全体を通しての意見

	<p>かねてより、市の公共工事は市内業者への発注を優先しています。今後とも市内業者への発注を基本に競争性が保てるように検討していきたいと考えています。</p>
<p>入札における経済的な合理性は重要な点ではあるが、経済活動のボーダレス化による地域の疲弊が顕著になる中、市として地域というものを意識することは大切だと感じる。 ただし、地域の業者との癒着があってはならない。それを説明することも行政の仕事。行政と地域の業者が、良いものを作ろうと一緒に育っていくというのが重要と考える。</p>	